

## 2. 日よとどまれ (Sun Stop)

『ペテロと魚』で聖書を読む上で重要な点は**比喻**だったが、もう一つ重要な点がある。

〈ヨシュア記 10 : 12~14〉 p.315

Q : ヨシュアは「日よ、ギベオンの上にとどまれ。月よ、アヤロンの谷にやすらえ。」と祈った。すると日はとどまり、月は動かなかったとあるが…？

Q : またこの話ではヨシュアが主人公だが、ヨシュアって誰？

聖書には人生の成功例と失敗例があるが、ヨシュアは理想世界を勝ち取った人だから、あなたもそうしたいなら関係がある話。まずは時代背景から。

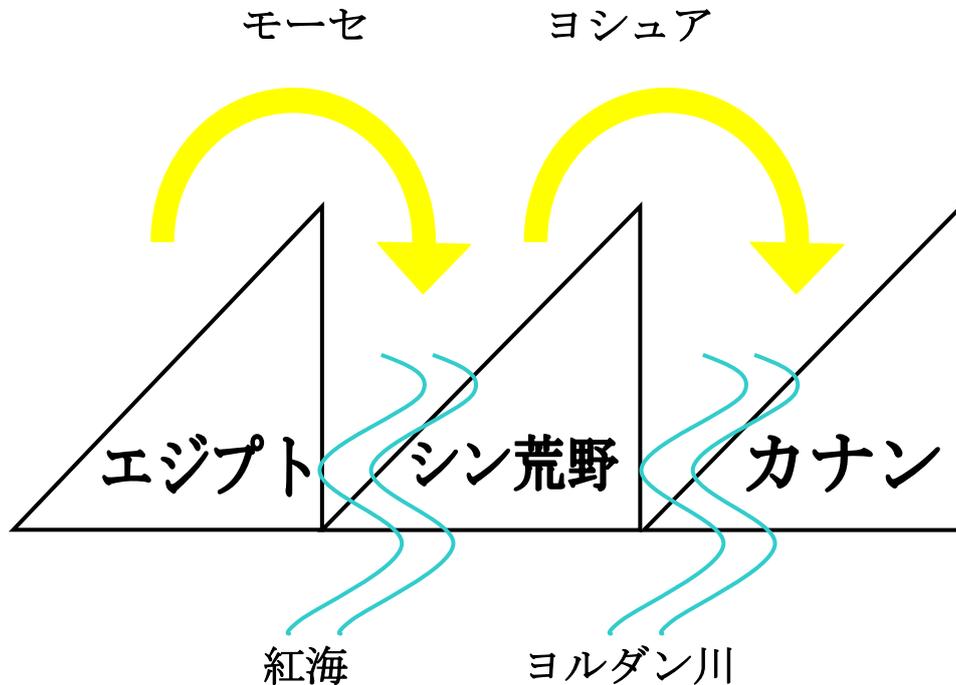
### 【各時代の中心人物】

アダム → ノア (箱舟) → アブラハム (F の父) → イサク → ヤコブ (イスラエル)

1600 年

400 年

→ ヨセフ (エジプト総理大臣) → モーセ (エジプト脱出・十戒) → ヨシュア (カナン到達)  
エジプトで 400 年間奴隷生活



…ヨセフは 11 人兄弟の末っ子として生まれた (後に弟が生まれて 12 人兄弟となる)。ヨセフは夢を見てそれを解く力を持っており、ある時両親と兄弟が自分を拝むという内容の夢を見た。それを両親と兄弟に話したので、兄弟から反感を買った。また父イサクの最も愛する妻の子 (当時は一夫多妻) で、兄弟の中で一番愛されていたので、兄弟たちが嫉妬し、ヨセフはエジプトに売り飛ばされてしまった。その後ヨセフはエジプトで忠誠尽くして働き、誰も解けなかった王の夢を解いて、7 年豊作で 7 年飢饉になることを事前に知って国を救い、王に認められて総理大臣にまでなった。その 7 年の飢饉で、自分の家族がエジプトに食料を買いに来て、総理大臣のヨセフを拝むようになった。こうして自分の夢の啓示が成就した。またヨセフは自分の家族をエジプトに住まわせて、イスラエル民族はエジプトで栄えるようになった。

ヨセフの死後、ヨセフを知らない王も出てきて、異邦人が国を治めているのが気に入らなくなってイスラエル民族を虐げるようになり、ついに奴隷化した。そしてヨセフの死後 400 年経って現れたのがモーセで、エジプトを脱出して神様の用意したカナンに導こうとした。モーセは民を導き、紅海を割って渡り、神様から十戒をもらってカナンを目指したが、民たちは、のどが渴いたとか、腹が減ったとか、帰りたいと不平不満を漏らした。そんなイスラエル民族をなんとかなだめながら、カナンへと向かった。

〈民数記 11 : 4~6〉 p.200

ああ、肉が食べたい。

〈民数記 13 : 1~3 17~20〉 p.203

ヨセフによってイスラエル民族がエジプトに渡って 400 年もカナンの地を空けていたので、違う 31 部族がカナンに

住み着いていた。だから神様はモーセをとおして、カナンに入る前、イスラエル民族 12 部族のかしらたちに 40 日間カナンの地を探りに行かせた。

#### 〈民数記 13 : 25~33〉 p.204

「カナンは乳と蜜が流れる地だが、そこに住んでいる民は強くて勝てない」と 12 人中 10 人の偵察隊が悪評したが、残りの 2 人のカレブとヨシュアは「必ず勝てる」と神様の言葉を信じ、善評した。

#### 〈民数記 14 : 26~35〉 p.205

カナンを探りに行って悪評した 10 人は荒野で疫病にかかって死に、カナンに探りにいった 40 日の日数に従い、1 日=1 年として 40 年間荒野で暮らすようになった。しかし善評したヨシュアとカレブはカナンに入れた。モーセは、イスラエル民族が、水が欲しいと文句を言ったとき、怒って 1 回だけ叩けばよかった岩を 2 回叩いてしまったので、カナンに入れなくなった。だからヨシュアを筆頭に第二世代がカナンに入った。

カナンには 31 部族の先住民族がいて、日々殺し合いの生活をしてきた。カナンに入るには 31 部族全てを倒さなければならなかった。神様が与えるといっても、ただで与えられるのではなく、もがきが必要だった。

ヨシュアは経験豊富な軍人だったが、流石にたいした武器もなく、自分の力だけでは 31 部族を相手にできなかった。神様に助けを求めざるを得なかった。

#### 〈ヨシュア記 10 : 12~14〉 p.315

##### ヨシュア率いるイスラエル民族 vs. 5 王からなるアモリ人連合軍 @ギベオン

イスラエルにとってはアウェイの戦い。夜になり暗くなると土地勘の無いイスラエルにとっては不利になる。つまり戦争が長引いたら負ける可能性が高くなる状態だった。そこでヨシュアは「日よ、ギベオンの上にとどまれ。月よ、アヤロンの谷にやすらえ。」と祈った。すると日はとどまり、月は動かなかった。

**Q : 太陽は動かずに地球が回っているのに、太陽がとどまるとはどういうことか？聖書が間違っているのか？**

#### 〈詩篇 104 : 5〉 p.839

あなたは地をその基にすえて、とこしえに動くことがないようにされた。

→地球は不動。ここにも天動説が書かれている。

A : ここで重要なのは時代性。まだ紀元前のこの時代に地動説の概念は無かった。ヨシュアも太陽が動いていると思っていたし、聖書は天動説が信じられていたその時代の人を通して書かれたものだから、天動説的に書かれている。

<参考>

16c になってはじめてコペルニクス・ガリレオらによって地動説が唱えられだした。しかし 16c は天動説を唱える宗教の力が強く、地動説を唱えるガリレオは宗教裁判にかけられたので、太陽が動いていると言わざるを得なかった。こうして宗教と科学が対立していった。本来科学は存在する法則を発見すること、神様を証すること。宗教も同じく神様を証することだから一つになるべき。宗教は聖書を文字どおり信じているので、科学者は宗教を受け入れられない。宗教は自分中心の天動説的に進み、科学は真理・法則を中心とした地動説的に進んだので、科学が先に発展した。

※ 聖書が違っているのではなく、時代性を分かって読まなければならない。

時代性について他の箇所にも書いてある。

#### 〈ルカによる福音書 2 : 1~2〉 p.85

ローマ帝国の皇帝アウグストが全世界の人口調査をせよと勅令を出したとあるが、この時代にアメリカ先住民の人口まで調べたはずが無い。調べていれば、1492 年コロンブスが新大陸発見などと言わない。つまり全世界とはこの時代、当時のローマ帝国が治めていた土地とその周辺の国を指す。

#### 〈コリント人への第一の手紙 13 : 12〉 p.271

鏡に映したようにおぼろげに見ている。…

→昔の鏡は金属鏡で、今のようにガラス鏡ではなかったので、きれいに映らなかった。

#### 〈コリント人への第一の手紙 13 : 10~11〉 p.271

全きものが…捨ててしまった。

→時代が変わると考え方も変わる。その時代にあった考え方がある。

**Q : では日はとどまったのか？もし太陽が止まったならどうなる？**

A : 地球は 1 日に 1 回転 (4 万 km) →赤道近くでは時速 1667km で全員西から東に吹っ飛ばす (南極点と北極点は無事)。被害はアモリ人だけにとどまらず、ヨシュア軍も壊滅。ゆえに実際太陽がとどまったのではなく、とどまったように感じたということ。つまり時間的錯覚。ヨシュアは敵の状況も詳しく知らず、土地勘もなかったので、時間がかかり、不利になるだろうと思っていた。ところが祈って戦いに臨んだところ、〈ヨシュア記 10 : 11〉 p.315 の「主は天から彼らの上に大石 (雹) を降らし、イスラエルの人々がつるぎをもって殺したものよりも、雹に打たれて死んだもののほうが多かった。」というように神様が共にし、思ったよりずいぶん早く終わって日がとどま

ったように錯覚した。

ヨシュア軍がカナン 31 部族に勝利できたのは

- ① 神様が共にして助けてくれるだろうと確信して戦ったから。すなわち神様という太陽を自分の中にとどめたから。
- ② 神様から得た知恵（たとえばエリコの城の攻略法）を実践した。
- ③ 朝早く起き、時間を治めた。

∴ 人生の成功の秘訣は

- 1.材料（資源）＝御言葉
- 2.技術＝実践力
- 3.時間＝実践する時間

時間を大切にしなければならない。成功するには時間が必要。ヨシュアはいつも朝早く起きていた（ヨシュア記 3：1～、6：12～、7：16～、8：10～参照）。朝 5 分 10 分遅れると、それを埋めるために必死にならないといけない。早く起きると余裕を持って生活できる。

一日 8 時間睡眠の人と 6 時間睡眠の人が 10 年生きると、 $2 \times 3650 = 7300$  時間＝約 300 日

時間の優先順位について

- ① プライムタイム（優先的時間）…御言葉を聞く時間に。
- ② ダウンタイム  
をうまく使い分けるように。

**Q：長生きしたいか？長生きするにはどうしたらいいか？**

A：人の 2 倍濃い人生を生きると、同じ時間でも長生きしたことになる。同じ時間内で人の 2 倍のことをすれば OK。人は長生きしたいというが老いて何年も生きるより、若いうちに長く生きる（濃い時間を過ごす）のが大切。そのためには習って生きることが重要。スポーツでも芸術でも習わず 10 回やるよりも 1 回教えてもらったほうが早くできる。

（若いときに神様の御言葉、真理をたくさん学んで、神様を悟って一生懸命生きるのが大きい。）

※ **核心：聖書は時代性を考えて読まないといけない！**

誰もがエジプト→シン荒野→カナンがある。御言葉を聞いただけではシン荒野。ひとつひとつ実践したときカナンに入れる。

## 【応用編】

自分の考えが強い人には

〈へブル人への手紙 3：14～15〉 p.345

御言葉を聞いたなら、心をかたくなにしてはいけない。固定概念を取り払って。

〈ペテロの第二の手紙 1：20～21〉 p.373 〈ペテロの第二の手紙 3：16〉 p.375

聖書を自分勝手に解釈すべきでない。聖書の話を知れば、まずはそのルールに則って。

〈ヨシュア記 6：4～〉 p.307

七日目には七度町を巡り、…

→7 は完全数だから、完全に行きなさい、という意味が込められている。5 章の最後に天使長ミカエルが出てくる。

ラッパを吹いて町を回ったのは心理攻撃。まず精神的に相手を崩した。町を焼き払うのも同じく心理攻撃。

天動說的生き方（読み方）：自分中心。固定観念に縛られている。文字通り信仰。（宗教）

地動說的生き方（読み方）：真理中心。（科学）

地動說的考え方の科学が発展し、天動說的考え方の宗教が廃れた。もともとはひとつ。

<参考>

初めて聞く人はヨシュアとは誰かわからないので時代背景は多少長くても伝えないといけない。

アダム（食べちゃだめなものを食べた） ノア アブラハム イサク ヤコブ ヨセフ（このときからエジプトに住むようになった）

聖書の一人一人の人物が自分に当てはまると思わせる。

父ヤコブはヨセフをかわいがり、ヨセフは親兄弟から憎まれ、エジプトに売られた。

ヨセフは忠誠をつくして一生懸命する人。ヨセフは神様を信じているから、神様は悪くはしないだろうと。売られた先でも忠誠をつくし、主人にかわいがられた。奥さんにも気に入られて、言い寄られ、拒否したので、濡れ衣を着せられ、牢屋に入れられた。牢屋でも忠誠を尽くして、門番長にされた。その後王の夢を解いて食料大臣に。故郷カナンでは飢饉で、エジプトに頭を下げて食料を買いに来た。夢成就。その後カナンから親族を呼び寄せて一緒に住んだ。ヨセフ死後他民族に侵略されるのを恐れたエジプトは、イスラエルを奴隷化した。そこでモーセはエジプトを抜け出し、カナンに帰ろうとした。途中シン荒野を歩いていかないとはいけなかった。導いていた民は食糧もないと荒野で不平不満。またカナンに偵察に行った 12 人中 10 人が悪評。

人生でもエジプト、シン荒野、カナンがある。自分は満足しているか？自分にとってエジプトは何？31 部族と戦うカナンは？→この質問で新入生チェック。

人生でももがくシン荒野がある。もがき無しでは傑作は生まれない。

本題

この日はアモリ人と戦う日だった。ヨシュア軍は強くて勝てそうだった。

材料・技術・時間の 3 つがないと成功できない。テスト勉強でも、材料（資料）・技術（学力）・時間が必要。

これを知っていたヨシュアは武器と戦術をもっていたが、日が落ちて暗くなると不利。そこでヨシュアは日よ、とどまれと。ここは天動説の発端となったところ。

日は止まってるやん。って思わへん？科学で地球は動いていると証明しても、宗教人は聖書をそのまま信じて反対した。だから科学と宗教が分離した。昔は宗教家のメンデルが遺伝の法則を発見した。

ヨシュアの時代は望遠鏡もなく、目で見えるものがすべてだったので、日が動いていると思った。

他にも ルカによる福音書 2 : 1 コリント人への手紙 13 : 12 と時代性を考えないといけない。

教訓があるのは、聖書は神様が人間に宛てたラブレターだから。

では止まれといったら日が止まったとあるが、止まったらどうなるか？みんな吹っ飛ぶ。

ヨシュアは何をしたかったか？時間が欲しかった。だから神様はヨシュアに集中力を与えてくれた。勉強でも同じ。

朝早く起きて時間を有効に。この話を聞いて、うまく時間を使おう心に決めてやってみたら OK。

太陽は神様の象徴。ヨシュアは神様の言葉を中心にして成功した。

もっと自分に当てはめて、聞いていければいい。

御言葉で突つくと新入生はいろいろ話してくる。

御言葉をきいて変わろうって思い、変わっていけるように努力して、変わったら神様を感じる。

ヘブル人への手紙 3 : 15~17

ペテロの第二の手紙 1 : 20~21

2004 年 3 月 8 日

真理は誰にも通用するものだから、難しいものではない。

「日よとどまれ」はカナンへの路程が含まれている。

聖書は歴代の王や預言者の歴史書だと言える。

アダム→ノア→アブラハム→イサク→ヤコブ→ヨセフ（忠誠尽くし、夢を解き、宰相に。イスラエル民族はエジプトに移住）→モーセ（出エジプト）→ヨシュア

出エジプト記 1 : 8~14

ヨセフは死んだが、イスラエル民族は増えて、強くなったので、エジプトの王は恐れて奴隷化した。

出エジプト記 2 : 23~25

民のうめきが神に届いた。

出エジプト記 3 : 7~12

モーセは最初どうして口下手な私が民を導けましようかといったが、神様が共にし、また兄のアロンが助けると

民数記 11 : 1~6

エジプトでは最低限の食料は得られたが、荒野では食料が得られなかった。そこで民は不平不満を言ったがモーセがとりなした。

民数記 13 : 1~20

400 年エジプトに移り住んでいたから、誰もカナンについて知らない。よって 12 人の偵察隊を送った。民の強弱、

**民数記 13 : 25~33**

偵察の結果、ヨシュアとカレブ以外の 10 人はカナンの地を民が強いから手に入れられないと否定的にとらえた。

**民数記 14 : 1~10**

ヨシュアとカレブは善評した。

**民数記 14 : 26~38**

神様は怒った。カナン反対派は裁きを受けて亡くなった。神様が望むことに従えば祝福、従えなければ裁き。

**ヨシュア記 1 : 1~9**

モーセが死んだあと、ヨシュアが中心的に導くようになった。でもいきなりタダでカナンを得られるわけではない。同様に御言葉を聞いて直ちに解決するのではない。聞いて実践しないといけない。

**ヨシュア記 6 : 1~27**

エリコの城を 7 周というのは完全にやったということ。7 は完全数だから。城壁が壊れたとは、守っている兵士の心が崩れた。完全に行って自分の中にあるエリコの城を崩さないといけない。

**ヨシュア記 7 : 1~26**

アカンが神様に捧げるべき戦利品を、捧げず勝手に自分の物にしたから神様が共にせず、戦いに負けた。人の目はごまかせても、神様の目はごまかせない。自分中心になっていないか？

**ヨシュア記 10 : 12~14**

日が暮れて暗くなると、ヨシュア軍は不利。材料・技術・時間のうち時間が無かった。でも短時間で敵を倒した。集中力を持続できたのは、神様が。あなたの踏んだ土地は信じぬいたから。時間的勝利